

## 根の造形美 「こんな根どうだ根」連載にあたって

中野明正

野菜茶業研究所 果菜研究部

私事にわたるが、私は学業一般の成績については特段のものは無かったが、図画工作や美術にはその才能を発揮していたように思う。絵画を書いたり、鑑賞したりするのは今でも趣味のひとつである。このような幼少からのセンスをある種の才能とするなら、私はある種の美的才能を有しているのではないかと密かに思っている。妻の醜美が私の審美眼を証明してくれる…ことになるかどうかはさておき、根を研究対象とし、その形についていろいろ気になり考えているのも、そこに何か美的な魅力があるからだと常々思っていた。

今でもそうだが、少年のころから、枝分かれの構造に何か不思議な魅力を感じていた。秋の森を散策し、目に飛び込んでくる、空に向かって分枝していく構造、東山魁夷が描いた湖畔の森の木立（「緑響く」、1972）も、葛飾北斎が描いた大波が細かな波となる様（「男浪」1845年）も、見ていると何かむずむずしてくる。これは、私が何か自然からの美のメッセージを感じ取っているからかもしれない。現在、図形の科学的解析が進み、このような図形は内部に自己相似形を有しているいわゆるフラクタルな図形であることが明らかになっている。根も御多分にもれずフラクタルである。このような根を含めた自然全般に共通する法則性が、何か人間に語りかけているのかもしれない。

産業の研究対象としての根は、生物生産の基盤として大変重要であることは言うまでも無いが、その構造と機能を結びつける研究は緒についたばかりであると言っても過言ではない。今まさにそれを科学として方向付けする試みが始まろうとしている。

しかし一方で、このような自然や根への関心は、科学や産業に直接結びつかなくても、いろいろな階層・段階であって良いと思う。こんなにきれいな植物の造形があるという、直感的

な感動も大切にされて良いと思う。しかし、根については、そういった視点に立った著述は少ないように思う。

本連載が、「根は美しい」、こんなシンプルな再認識または初認識の手助けになれば幸いである。

幸い私が研究対象としている野菜は種類が多く、根の形もバラエティーに富んでいる。当面は、いろいろな野菜の根の形と地上部の食べられ方、効能などを交えて解説していきたいと考えている。

もちろん、「ご自慢の根」がありましたら、優先的に掲載していきたいと考えていますので、投稿の程よろしくお願ひします。特に、ビジュアルに訴えるコーナーとして考えておりますので、写真またはデジタル画像での投稿を歓迎いたします。

### 参考文献

- 1) 三井秀樹, 形之美とは何か, NHK ブックス, 2000
- 2) 三井秀樹, 形とデザインを考える 60 章, 平凡社新書, 2001
- 3) ジョン・ブリッグス, フラクタルな世界 科学と芸術にみる新しい美学, 丸善, 1995
- 4) 宮崎興二編著, 形の科学おもしろ事典, 日本実業出版社, 1996
- 5) 山内章編著, 植物根系の理想型, 博友社, 1998
- 6) 岩波洋造, 自然のかくし絵 サイエンスからアートへ, 海鳴社, 1995
- 7) ピーター・スティーブンス, 自然のパターン形の生成原理, 白揚社, 1987.